

岐阜県・中津川市で市民150名が熱い討論！

「リニア中央新幹線を考える学習会」

2月6日、岐阜県中津川市にぎわいプラザにおいて、「東濃・リニアを考える会」（実行委員会）主催の「リニア中央新幹線を考える学習会」が開催されました。学習会には、地域住民、協賛団体など約150名が参加しました。慶應義塾大学・川村晃生教授（リニア・市民ネット代表）がコーディネーターとなり、4名のパネリストがそれぞれ報告し、その後参加者を交えてリニア中央新幹線の課題、問題点などを討論しました。



パネリストの前中津川市長・中川鮮さんは、「地域とリニアの融合性を考えてきた」「新駅を造るには350億円が地元負担となる。それに見合うメリットはあるのか？」「リニアの駅ができることで街が発展することはない。ストロー効果で街が寂れるのではないかと疑問を訴えました。また、千葉商科大学・橋山禮治郎教授は「これだけの大プロジェクトにもかかわらず国民の関心が薄い。もっと関心を持つべき」「需要予測、経済的効果から失敗の可能性が大きい」と訴え、電磁波環境研究所・荻野晃也所長からは、電磁波の危険性について説明があり、リニア新幹線は経験のない未知ものであり「『予防原則』の思想から規制を厳しくするべき」と指摘しました。JR東海からも、高原順哉中央執行副委員長がパネリストで参加し「JR東海には巨額の長期債務がある。リニア中央新幹線の建設はJR東海の経営を圧迫する」と訴え、さらに労働組合へ情報を開示しないJR東海の組合無視の実態も明らかにしました。今回の学習会でリニア中央新幹線には、様々な問題点が多くあることが浮き彫りになりました。広く国民に訴え議論して行かなくてはなりません。

<p>リニア新幹線費用対効果議論</p> <p>中津川で集会</p> <p>JR東海の「リニア中央新幹線」について考える集会が6日、中津川市で開催された。川村晃生教授、前中津川市長の中川鮮さんがパネリストとして登壇。「東濃に新駅を造るため、中津川</p>	<p>リニア新幹線の問題点を考える</p> <p>中津川で学習会</p> <p>「リニア中央新幹線を考える学習会」(東濃・リニアを考える会)主催の学習会が、6日、中津川市市民ホールで開かれ、県内外から約40人が参加した。川村晃生教授がコーディネーター</p>	<p>市の一級会計予算に匹敵する350億円を地元負担する。それだけのメリットがあるか」と疑問を投げかけた。</p> <p>市民グループ「東濃・リニアを考える会」の主催で、約140人が参加した。中川市長は市長時代、地元リニア建設に賛同し、前中津川市長の中川鮮さんがパネリストとして登壇。1、東濃に新駅を造るため、中津川</p>
<p>性にするのか考えよ」と浴びに指摘した。</p> <p>パネリストの橋山禮治郎・千葉商科大学教授は、東京湾アクアラインなどを例に、需要を無視した大事業の危険を指摘。中国の新幹線がリニア並の時速486kmを記録していることを挙げ、「コストは100億円で20億円で、リニアの10分の1。対輸出でも対抗するのは難しい」と話した。</p>	<p>となり、リニア中央新幹線の課題、問題点を話し合った写真。</p> <p>荻野晃也電磁波環境研究所所長は「リニア電磁波による電磁波が、人体にどのような影響を与えるのか議論された。市内外から約40人が参加し、長で元京都大防災研究所教員の川村晃生教授がコーディネーター</p>	<p>と、リニア中央新幹線の問題点を考える。高原順哉JR東海中央執行副委員長は「JR東海には巨額の長期債務があり、巨額の事業を進めるのは経営的なリスクが大きい」と指摘した。(本田英寛)</p>

について説明があり、リニア新幹線は経験のない未知ものであり「『予防原則』の思想から規制を厳しくするべき」と指摘しました。JR東海からも、高原順哉中央執行副委員長がパネリストで参加し「JR東海には巨額の長期債務がある。リニア中央新幹線の建設はJR東海の経営を圧迫する」と訴え、さらに労働組合へ情報を開示しないJR東海の組合無視の実態も明らかにしました。今回の学習会でリニア中央新幹線には、様々な問題点が多くあることが浮き彫りになりました。広く国民に訴え議論して行かなくてはなりません。